

濃縮・埋設事業所の原子力防災訓練

当社は、10月13日、大規模地震の発生によりウラン濃縮工場と低レベル放射性廃棄物埋設センターの2つの施設で、同時に災害が発生したことを想定した原子力防災訓練を実施しました。

今回の訓練には、当社と協力会社に加え、規制庁やの他、発災時に連携が必要となる県内の原子力事業者の方々も含め約380名が参加し、各施設の事故収束に向けた対応や、全社対策本部による事業部への支援、事業部での人や資機材の連携、社内外への情報発信が迅速かつ確実に行えることを確認しました。



全社対策本部において指揮を執る社長の増田(写真右)と副社長の太栴(写真左)

＜ウラン濃縮工場＞

地震の影響で建屋内の配管が破損し、六フッ化ウランが漏えいしたことを想定した訓練を行いました。現場では、化学防護服を装着した当社社員が漏えい箇所を養生し塞ぐとともに、屋外に六フッ化ウランが漏えいした場合でも拡散を抑制できるよう、屋上から建屋周辺に散水をする準備を行いました。



防護服を装着した設備応急班が六フッ化ウランの漏えい箇所を養生し塞ぐ様子



防護服を装着した消火班が屋上散水に使用する水を汲み上げるポンプを設置する様子

＜低レベル放射性廃棄物埋設センター＞

地震の影響で埋設クレーンから廃棄体が落下したというトラブルを想定し、防護服を装着した当社社員が、落下し蓋が外れた廃棄体から飛散した内容物の回収や、汚染の拡大を防止するために廃棄体をシートで養生する訓練などを行いました。



落下した廃棄体から飛散した内容物を回収する様子



落下した廃棄体をシートで養生する様子

当社事業は、地域の皆さまの信頼があって成り立つものであり、長年にわたって支えていただいている地域の皆さまへの感謝の気持ちを忘れることなく、これからも地域とともに歩み続け、地域の発展に貢献してまいります。